

B—98 被服の防黴加工に関する研究（第6報）
有機錫剤による衛生加工処理布の耐洗
性について

愛知淑徳短大 古田 幸子

1. 前報までに衣服の衛生加工剤のうち、主に有機水銀系剤について、その耐汚染性、耐汗性、耐摩耗性、耐洗性等を検討し報告してきた。また防黴効果判定法についても検討を加え、Hallo-Test 法に対する疑問を提出し、その他の方法の得失をも示した。本報では最近殺菌剤、重合触媒その他に応用されており、また衛生加工剤としての有効性が認められるようになった有機錫系防黴剤のうち、Bis Tributyltin Oxide（以下TBTOと略称）について、その実用効果を検討するための実験を試み知見を得たので報告する。

2. 0.01%、0.05%、0.1%、0.5%、1%、5%の各濃度のTBTOで処理した木綿、ウール、ナイロン各平織布およびこれらを洗淨した布につき、その耐洗性をTest-Tube 法により検討した。またこれを定量的に測定するために、ジチオール法によって測定した。すなわち、検体を分解ビンに入れ、硝酸と硫酸を3:1に加えて内容物がほとんど白色になるまで加熱して灰化し、これを濃塩酸に溶解し、ろ過して一定量にした後、ジチオール試薬を加えて発見させ、比色定量を行なった。測定波長は530m μ である。

3. Test-Tube 法による成績と定量の結果とはほぼ一致した。通常処理1%濃度では、1回洗淨で30~50%の減少率を示したがこれより高濃度および低濃度処理のものではより高い加工剤の持続性が認められた。